

1 単元名 「育ちゆく体とわたし」

2 ねらい

自分自身の体の発育・発達に関心をもち、進んで調べようとする。（関心・意欲・態度）

思春期の心の変化について、自分の成長や生活を振り返りながら予想したり、考えたりすることができる。（思考・判断）

思春期における体の変化について、男女の体における共通点や差異点を具体的に理解することができる。（知識・理解）

3 指導の考え方

男女共同参画教育のねらいを達成するには、男女がお互いの性差について正しい認識をもつことが必要である。そこで、男女の体の外にあらわれる変化の共通点や違いをパズル（横向き男女の体のシルエット等）や、体の中の変化（初経・精通等）についての資料を活用して理解させることで、男女には、身体的・生理的な違いがあることを認めようとする考え方を育成する。（性差の正しい認識：身体的・生理的性差の理解）

また思春期になると、異性のことが気になり、異性と仲良くしたいという気持ちが高まる。一方、反発し合あうことがある。そこで、男女仲良く助け合うためにはどんなことに気を付けたらよいかを考えさせることで、友達の個性を認め、男女の別なく共に協力していく態度を育成する。（実践的態度の育成：他の個性の認識と相互の尊重）

4 単元指導・評価計画（全5時間）

|       | 学習内容・活動  | 指導・支援のポイント   | 評価           | 評価規準（B）   |
|-------|--|--|--------------|---|
| 第1・2時 | 1 体の発育<br>第3学年の保健学習を想起し、本単元の計画を立てる。<br>・体の発育のしかた<br>食事、運動などの大切さについて調べる。<br>・調和の取れた食事<br>・適切な運動<br>・休養と睡眠 | 健康な生活に必要な食事・運動・休養・睡眠を行うことによって、これから体はどのように変化していくのか、見通しをもたせる。<br>・身長、体重の変化（個人差）<br>・学級活動(2)と関連させ、実践力を育成する。 | 関・意・態<br>知・理 | ・年齢に伴って、体は大人の体に近付き変化していくことがある程度関心をもって書かれている。<br>・体をよりよく発育させるためには、調和の取れた食事・適切な運動・休養と睡眠の必要性を記述している。 |
| 第3時   | 2 思春期の体の変化<br>思春期における体の外にあらわれる変化に  | 男女の体の変化の共通点や違いをパズルを活用して理解させる。<br>・6歳頃の後ろ向きの絵   | 知・理          | ・思春期における体の変化を書くことができる。  |

|         |  |  |        |   |
|---------|--|--|--------|---|
| 時       | について調べる。<br>・男女の体つきの変化   | ・横向き男女の体のシルエット   |        |   |
| 第4時     | 思春期における体の中にあられる変化について調べる。<br>・初経、精通<br>・変声、発毛<br>・個人差                  | 男女それぞれの体の中の成熟について、具体的な資料に基づいて想起させる。<br>・個人差があることを視覚的に訴えるための初経、精通開始年齢を表した表やグラフ<br>(身体的・生理的性差の認識)                            | 知<br>理 | ・月経や射精といった体内部の成熟に関して、初経や精通の仕組みを理解した記述がある。                                       |
| 第5時(本時) | 3 心に起こる変化<br>思春期の特徴として、異性への関心は芽生えることについて考える。<br>・気になる異性<br>・男女の助け合い、協力 | 思春期には、異性に対する感情が芽生え始めることを、低学年の頃の経験と現在を比較して考えさせる。<br>また、自分の体の変化や個人による発育の違いなどについて肯定的に受け止め、互いの良さを認め合う態度を養う。<br>(他の個性の認識と相互の尊重) | 思<br>判 | ・低学年の頃の経験と現在を比較して考えることで自分自身を振り返り、男女仲良く、助け合って協力していくためにはどんなことに気を付ければよいか考えることができる。 |

## 5 本時のねらい

低学年の頃の経験と現在を比較して考えさせることで、自分自身を振り返らせ、男女仲良く、助け合っていくためにはどんなことに気を付ければよいか考えさせる。(思考・判断)

## 6 本時の考え方

前時までに、思春期における体の内や外にあられる変化を理解することで、男子・女子それぞれが自己の性を肯定的に受容するようになっていっていると考える。本時では、男女仲良く助け合うためには、どのようなことに気を付ければよいかを考えさせることで、お互いに人格を尊重し合う思いやりの心情を育てることにつながると思う。

(実践的態度の育成：他の個性の認識と相互の尊重)

## 7 展開

| 段階  | 学習活動  | 支援の観点( )や予想される考え(・)                                      |
|-----|---|--|
| はじめ | 1 前時を想起し、本時のめあてを確かめる。<br>思春期における体の内外に現れる変化について振り返る。 | 前時までの掲示物を基に、想起させる。<br>・男女の体つきの変化<br>・初経、精通、変声、発毛<br>・個人差 |

|                                  |  |  |
|----------------------------------|--|--|
| <p>な<br/>か<br/>お<br/>わ<br/>り</p> | <p>本時のめあてを確認する。</p> <p>—めあて—</p> <p>思春期の心の変化について考えよう。</p>  |  |
|                                  | <p>2 赤ちゃんの頃から現在までの遊び方等を比較させ、心に起こる変化について考える。</p> <p>(1) 絵をもとにどんな遊び方をしていたか、またその時の気持ちを考える。</p> <p>赤ちゃんの頃<br/>4～6歳の頃<br/>7～8歳の頃<br/>9～12歳の頃</p> <p>(2) 心の変化を実感できるパネルの活用し、異性への関心について考える。</p> <p>男子のパネル<br/>女子のパネル</p> <p>3 男女仲良く助け合うにはどんなことに気を付けたらよいかを考える。</p> <p>お互いを思いやる言葉遣い<br/>個人差への配慮<br/>共に協力できる活動や遊び</p> | <p>思春期には、異性に対する感情が芽生え始めることを、小さい頃の経験と現在を比較して、理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃんの頃は、一人で遊んでいた。</li> <li>・幼稚園の頃は、男女一緒に遊んでいた。</li> <li>・3年生くらいから男子は、男子で遊ぶことが多くなった。</li> <li>・男女で対立することもあった。</li> </ul> <p>「女の子と話すと周りがさわぐからはずかしい。」「好きな男の子と話すとドキドキする。」等の男女の心の変化を実感できるパネルを準備し、自分の経験と比較させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔が赤くなったことがある。</li> <li>・話したいんだけど、つい反抗してしまう。</li> </ul> <p>思春期の心の変化について、肯定的に受け止め、自分の成長や生活と結び付けて考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の心や体の成長の仕方や一人一人の成長の仕方は違うので、思いやりの言葉を増やしていきたい。</li> </ul> <p>男女が協力して学級での生活を充実、向上させるための活動について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで遊ぶ日について</li> <li>・協力してできるボランティア活動について（以後、学級活動との関連を図る。）</li> </ul> |